

第7回 知識共創フォーラム 発表募集のご案内

<http://www.jaist.ac.jp/fokcs/>

知識は、人間の生命・安全保障から企業・都市・国家の経営、そして地球規模の持続可能社会構築に至るまであらゆる社会的活動の中核を担う要素です。旺盛な知的好奇心をもって、個人や組織における知識の創造・共有・活用に潜む知的神秘を解明し、より高度に成熟した知識社会を実現していくための指針を提案していくことは、知識科学の大きな学術的使命です。この実現のためには、

1. 幅広い視野に基づいた社会や生活における知識の深い洞察と問題提起
2. 知識の創造・共有・活用に関わる前例にとらわれない独創的な仮説やモデルの構築
3. 知識を適切に抽出・評価できる方法論による仮説検証とモデルの洗練

を継続的に行っていくことが必要であり、同時に、研究者や実務家との分野を超えた密度の濃い議論が不可欠です。

このような意識のもと、研究報告者と参加者が知識を共に創造していくことを通じ、広く知識科学研究の基盤を形成していくことを目的として、第7回知識共創フォーラムを開催します。

会期：2017年3月21日（火）、22日（水）

会場：大阪府立大学「I-site（アイサイト）なんば」

大阪市浪速区敷津東2丁目1-41

（地下鉄御堂筋線「なんば駅」、徒歩約15分

地下鉄御堂筋線・四つ橋線「大国町駅」、地下鉄堺筋線「恵美須町駅（1-B出口）」、

南海電鉄高野線「今宮戎駅」、徒歩約7分）

<http://www.osakafu-u.ac.jp/isitenanba/about/map/>

1. 主な構成

第7回知識共創フォーラムは、以下の4種類のセッションによって構成されます。

I. 招待講演セッション：

招待講演タイトル：

経験学習・自己調整学習から知識共創へ ～メタ認知スキルを育む教育デザインと実践～

招待講演者：仲林 清 教授 【千葉工業大学】

テーマセッション：

II. テーマセッション（20分発表，60分合同質疑応答）

テーマ：「知識共創力の源泉は何か？それをどう育むのか？」

第7回知識共創フォーラム・テーマセッションでは，知識共創力に焦点を当て，知識共創に関係する様々な事象の解明，教育・学習プロセスの構成・評価等に関係する発表等を幅広い分野から募集します。

知識共創力は，指向性・専門性・熟達度の異なる関係者の多様な知見を引き出して統合し，問題同定・問題解決の質を高めるうえで重要な役割を担います。知識共創力に関する研究としては，個人の知識共創力の発現要因は何か，集団としての知識共創力はどのようなコミュニケーションによって発現するのか，といった認知科学的なアプローチ，場や制度のデザインと集団・組織の知識共創力の関係性をアクションリサーチ・社会調査法・数理シミュレーションで明らかにしようという経営学的・経済学的・システム科学的アプローチ，特定のコミュニティにおける知識共創力の発現プロセスをアンケート・インタビュー・参与観察等によって明らかにしようとする社会科学的なアプローチ，知識共創力の発現を促す情報システムを構成しようとする情報科学的なアプローチなどが考えられます。また，知識共創力を発揮する場合は，同時に、自分の知識・スキルを他者との対比で洗練し，異なる視点からの新しい知識・スキルを獲得する学習の場ともなるので，学習科学・教育工学的なアプローチも重要です。もちろん，知識共創力の解明には複数のアプローチを統合する試みも不可欠です。

本テーマセッションでは，仲林清氏の招待講演とテーマ研究発表を踏まえて，知識共創力に関心のある研究者が集い研究成果を交換し，議論を深めながら，異なる学術分野の知見を融合し，知識科学の新しい研究課題・アプローチを見いだすことを目指します。テーマ研究として想定するキーワードを下記に列挙しますが，知識共創力に関連する研究であれば，これに限定するものではありませんので，多くの方の投稿・参加をお願いいたします。

キーワード：コラボレーション・イノベーション・コミュニティ・コミュニケーション・メタ認知・協調学習・批判的思考・経験学習

III. 一般セッション（20分発表，20分質疑応答）

本セッションでは，各自の知識科学研究の成果を報告し研究を進めることを目的とします。登壇者は知識科学に関連すると考えられるテーマについて，自らの研究活動を魅力的に説明することが期待されます。また，参加者は発表に対し，補うべきロジックや新しい展開の方向性についてアイデアを提供することが期待されています。

IV. シーズ（種）セッション（15分発表，20分質疑応答）

知識の創造・活用を促進させると考えられる，自らの持つ技術やコンセプトの種を成長させることが目的のセッションです。登壇者は自らのアイデアを明瞭かつ魅力的に解説する

ことが、また、参加者は当該アイデアの持つ理論的・実用的意義について考えコメントすることが期待されます。

V. インタラクティブセッション（1時間30分発表および質疑応答）

発表者と参加者たちの中で長時間・双方向のインタラクションが望まれる知識科学に関する研究成果（研究途上成果も含む）についてポスター形式で発表し、参加者との知識共創によって研究をさらに発展させること目的とします。

議論のポイントを明確にするため、発表者には全参加者に対してショートプレゼンを行っていただきます。参加者は発表者が提示した論点を中心に、発表内容について建設的な議論を行ってください。

2. 対象課題

知識の創造・共有・活用に関わるあらゆる研究を対象とします。特に、以下の課題に関係のある話題を歓迎しますが、これに限るものではありません。

1. 幅広い視野に基づいた社会や生活における知識の深い洞察と問題提起
2. 知識の創造・共有・活用に関わる前例にとられない独創的な仮説やモデルの構築
3. 知識を適切に抽出・評価できる方法論による仮説検証とモデルの洗練

以下、本フォーラムにおける参考キーワードです。

知識科学	ナレッジ・マネジメント	研究開発マネジメント	イノベーション・マネジメント
サービスサイエンス	医療サービス	知識表現	知識発見
メディア・インタラクション	発想支援システム	スキルサイエンス	デザイン思考
感性情報処理	知識獲得	身体化された認知	認知モデル
制度設計	知識経済	意思決定分析	認知科学
公共政策	地域経営	地域イノベーション	知識人類学
コミュニケーション	学習科学	教育工学	イノベーション
メタ認知	脳科学	人工知能	知識工学

3. 本フォーラムでの発表の取り扱い

- まず、発表のアブストラクト（1000字程度、かつ、A4で1枚以内）を、下記の「5. 投稿方法」に従って投稿していただきます。
- アブストラクトの内容を複数のレビュアーが査読した上で採否を決定します。
- [II]～[IV]のセッションに採録された方にはフォーラム開催の前に発表に関する研究会報告資料を提出していただきます（ページ数は4～10ページの範囲内）。

- なお、インタラクティブセッションに採録された方の研究会報告資料の提出は任意とします。
- 提出された研究会報告資料は、会期中に本フォーラム参加者のみで共有される資料となります。研究会報告資料は同意された方のみ後日ウェブサイトを通じて公表されません。研究会報告資料の公開に同意されない方も発表のアブストラクトは後日ウェブサイトを通じて公表されます。
- 本フォーラムでは博士課程に在籍する若手研究者の研究発表を歓迎しております。研究途上のものであってもシーズセッションやインタラクティブセッションにおける発表と議論を通じて、研究のさらなる発展が行われることを期待しております。

4. 主なスケジュール

- アブストラクト投稿〆切：~~2017年1月10日(火)~~ 2017年1月15日(日) (延長しました)
- 採録通知予定：2017年1月下旬
- 研究会報告資料提出〆切：2017年3月1日(水) 18:00
- 第7回知識共創フォーラム開催：2017年3月21日(火)、22日(水)

5. 投稿方法

知識共創フォーラムのウェブサイト<<http://www.jaist.ac.jp/fokcs/>>にアクセスし、登録の上、アブストラクトのPDFファイルをアップロードして下さい。投稿に際して、テーマセッション、一般セッション、シーズセッション、インタラクティブセッションのどれに投稿するかを指定していただきます。ただし、選考結果によっては、ご希望のセッションとは異なるセッションに割り当てられることがあります。

アブストラクト原稿のフォーマットは、ウェブサイトにテンプレートファイル(本文1000文字程度、かつ、A4で1ページ以内)を用意しましたので、そちらをお使い下さい。フォーマットにありますように英語タイトルを含むようにしてください。また、図表を挿入していただいても構いません。

6. 賞

[II]～[IV]のセッションにて発表された方の中から優秀であると認められた発表に対して賞を授与します。この他に、公共政策、地域経営の実践に寄与する優れた研究に対し、第1, 2回知識共創フォーラム開催地である能美市より能美市長賞が贈られます(能美市長賞は研究会発表報告資料をもとに決定しますので、能美市長賞の候補となるには事前にエントリーしていただき、かつ研究会報告資料をウェブサイトで公開することに同意していただく必要があります)。

また、本フォーラムでの議論(質疑応答)をもとに後日改訂された研究会報告資料の中か

ら優秀論文賞と共創賞が授与されます（[V]のインタラクティブセッションの発表も研究会報告資料をフォーラム前に提出していれば、フォーラム後に改訂をへて、選考にエントリーできます。）改訂後の賞の対象となるのは本フォーラムのウェブサイトにて研究会報告資料の公開に同意していただいた発表に限ります。

7. 共催

第7回知識共創フォーラムは、大阪府立大学 現代システム科学域 知識情報システム学類との共催です。

8. 問合せ先

知識共創フォーラム事務局

Email: <office-fokcs@onto.jaist.ac.jp>